



清流news

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1

Tel 042-514-8309

発行日 1月・4月・7月・10月

Vol. 114

発行
日野市
環境共生部
緑と清流課

第1回 あさかわ写真コンクール ～しぜん・ひと・まち～

日野市と八王子市、両市を流れる浅川を源流から多摩川合流点までひとつの流域として捉え、良好な水辺環境と心豊かな浅川流域のまちづくりを目指し、浅川流域連携事業として始めました、あさかわ写真コンクールも今回で7回目を迎えました。

平成29年11月4日には日野市多摩平の森ふれあい館にて表彰式が開催され、入賞者の方々に賞状と副賞の授与が行われました。

当日は、大坪日野市長、石森八王子市長および、協賛企業のカシオ計算機の高宇田様、コニカミノルタの友田様より贈呈が行われました。



表彰式にて

◆一般の部 最優秀賞



『秋の午後』

池田 榮雄

◆中学生以下の部 最優秀賞



『川遊びデビュー』

小林 翼

◆第7回 あさかわ写真コンクールの結果◆

- 作品募集期間 平成29年4月1日から8月31日まで
 □応募作品数 総数415作品（一般の部331作品、中学生以下の部84作品）
 □入選作品数 一般の部：15点 中学生以下の部：15点

受賞内容	作品名	作者名
最優秀賞	秋の午後	池田 榮雄
優秀賞	今を生きる！	伊藤 完
	元日の浅川と富士山	佐田 浩一
日野市長賞	春の浅川河川敷	安孫子昭二
八王子市長賞	川霧につつまれて	平野 一夫
一般の部 佳作	溪流で遊ぶ	石川 正秀
	沈む月	伊藤 良一
	田んぼ	小沢 修
	雪の南浅川橋	岸田 隆雄
	初春	黒田 徳宏
	一休みする鯉ノボリ	津村 義輝
	翡翠	戸高 直
	夕暮れ	土方 憲司
	秋の北浅川	星野 郁男
	浅川 川下り、ゴジラ頑張れ	真次 弘

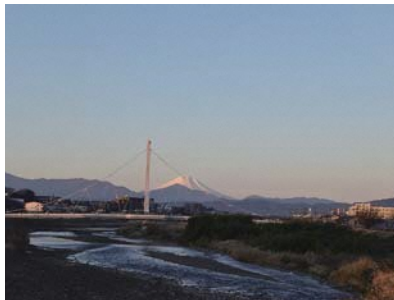
受賞内容	作品名	作者名
最優秀賞	川遊びデビュー	小林 翼
優秀賞	水流	石川 優太
	一日の始まり、朝の顔	佐々木 花
日野市長賞	川をきれいに!!	八木下光樹
八王子市長賞	自分だけの場所	長島 右京
中学生以下の部 佳作	五月を駆ける	小山 咲風
	たおやか	城ヶ崎一心
	空道	関根 優希
	ミドリの夜明け	田中真也子
	仲の良い親子	徳山 桜優
	東京タワーみたい!!	鳥水 月乃
	自然豊かな浅川	中村 光翼
	キラキラ	東 千翔
	真夏の浅川	松浦 航太
	浅川アユまつり	水口 信綱

◆一般の部 優秀賞



『今を生きる！』伊藤 完

◆一般の部 優秀賞



『元日の浅川と富士山』佐田 浩一

◆一般の部 日野市長賞



『春の浅川河川敷』安孫子 昭二

◆中学生以下の部 優秀賞



『水流』石川 優太

◆中学生以下の部 優秀賞



『一日の始まり、朝の顔』佐々木 花

◆一般の部 八王子市長賞



『川霧につつまれて』平野 一夫

◆中学生以下の部 日野市長賞



『川をキレイに!!』八木下 光樹

◆中学生以下の部 八王子市長賞



『自分だけの場所』長島 右京

《入選作品の展示》

□日野宿交流館

日時：平成30年1月4日(木)
 から1月31日(水)まで
 午前9時から午後5時
 まで

※月曜休館、月曜が祝祭日の場合は火曜休館



日野用水開削450周年記念シンポジウム報告 ～昨日と今日、そして明日へ～

去る、10月15日ひの煉瓦ホール 小ホールにてシンポジウムを開催いたしました。

昨年度から街歩きや講座を通して、日野用水開削450周年に関わる歴史や時代背景、人々の暮らし、生きものなどを紹介してきました。今回のシンポジウムは記念イベントとして最大の規模であり、集大成でもありました。

陣内秀信 法政大学教授の基調講演に始まり、小中学生の清流ポスター表彰式、「日野の用水の現状と課題」のパネルディスカッションを行い、会場は一時立ち見が出るほどの盛況ぶりで、入場者数は230名におよびました。

陣内先生の基調講演では「ヴェネツィア・東京・そして日野」と題し、世界の港町の変遷、日本の水文化の素晴らしさ、日野の宿場町の歴史を交えた日野用水の話をしていただきました。

清流ポスター表彰式では、最優秀作品2名・優秀作品28名の表彰が行われ、大坪市長から直接表彰状が手渡されました。

パネルディスカッションでは、パネリストによるプレゼンを含め、日野市の用水の現状と課題をディスカッションしていただき、最後は「水の郷 日野」を次世代に残すための「共同宣言」を行い万雷の拍手で承認を受け、無事閉会となりました。

今まで行ってきた様々なイベントを通して、少しでも日野にある豊かな水環境を知ってもらおうと共に、田んぼの減少に伴う水路の存在意義の薄れに対し、どのような考えを持って今後対策を行っていけばよいか等、皆さんと意見交換をし、確認することが出来ました。



シンポジウム

※日野用水450年記念冊子好評発売及び製作中です。

- ・冊子1：学校教育用 入門編 800円にて市政図書室で発売中。
- ・冊子2：論文 調査報告 応用編 800円にて市政図書室で発売中。
- ・冊子3：図録 資料 平成30年3月製本予定。
- ・冊子4：日野用水資料集 平成30年3月製本予定。



ポスター表彰式 小学生



ポスター表彰式 中学生

燃料電池自動車

MIRAI

日野市にMIRAIが
やってきた!

水素を燃料として走る燃料電池自動車「MIRAI」が納車されました!

MIRAIは、水素を燃料として、空気中の酸素との化学反応で発生する電気により走行し、走行時には有害な排ガスやCO₂を一切排出しないクリーンな次世代自動車です。

車体の左右にあるエコアラ・エコクマのかわいらしいラッピングが目印です。

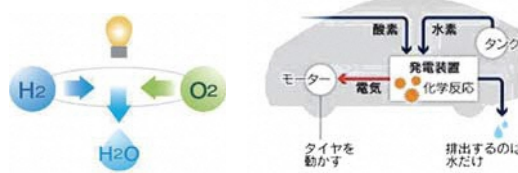
水素社会の構築に寄与するとともに、日野市の環境に対する取組の動く広告塔として、市内はもちろん、市外への出張の際にも積極的に利用しているほか、平成30年2月17日開催予定の環境フェアにも出展するなどして、車両のPRをしているので見かけたら応援してください。

環境フェア 2月17日(土) 13:30~15:00

市民会館大ホール (MIRAI展示は市民会館前)

●特徴・仕組み

燃料電池自動車「MIRAI」は、水素と酸素の科学反応で発電した電気を使用して、モーターを回して走る
燃料電池車は水素と酸素を反応させて電気を作りモーターを回す仕組みです。



●メリット

- ①有害な排出ガスがゼロ 走行時のCO₂排出はゼロで、発生するのは水のみ。
- ②騒音が少ない 燃料電池は科学反応によって発電するため、騒音が低減され、都市全体の騒音対策にも効果が期待される。
- ③短時間の充填 長時間の充電が必要となる電気自動車と違い、短時間で燃料の充填ができ、走行距離はガソリン車並み (充填時間: 約3分、充填走行距離満タン時: 650km 水素充填量7.5kg、燃費86km/1kg)
- ④発電機として利用可能 水素と酸素の化学反応で大きな電力を生み出すことができるため、災害などの停電時には、発電機として電化製品に電力を供給できる。
- ⑤アピール性の高さ 水素活用に向けて、燃料電池自動車を先行して採用することにより、市内内外に向けて「環境のまち ひの」のPRとなる。



みんなで
「環境のまち ひの」
をPRしよう!



今後市の花である菊が、みなさまの身近な花としてご観賞していただけたら幸いです。

菊花展をご覧になった方は既にお気づきかと思いますが、ここには都内の菊花展ではあまり見ることのできない伊勢菊、嵯峨菊、肥後菊や、花芯を包み込むように咲く珍しい江戸菊などの古典菊もありました。その他市役所庁舎付近では実用菊を基に千輪咲きや富士山などの菊の展示も行われました。

また日野市役所市民プラザにおいて開催されました。今年は夏以降の長雨や台風の影響など、菊を育てるうえで非常に厳しい自然環境でしたが、日々の調整が功を奏し無事に開花にいたしました。一斉に開花した菊は、長い間私たちの目を楽しませてくれました。

日野市
菊花展

毎年恒例となっている「日野市菊花展」が平成29年11月1日(水)から11月20日(月)

桑ハウスの国登録有形文化財登録お祝い会・特別公開を行いました！

主催：日野市・仲田の森遺産発見プロジェクト

平成29年11月11日、12日の第51回日野市産業まつりで「旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室」（通称桑ハウス）の国登録有形文化財登録お祝い会と特別公開が行われました。

平成29年6月28日に桑ハウスは国登録有形文化財となりました。日野市では初めての国登録です。国登録有形文化財とは歴史的価値のあるものを保存しつつ活用し使っていくことも出来る仕組みです。11月11日のお祝い会には衆議院議員、都議会議員、市議会議員をはじめとし、昨年度桑ハウスの保存・活用を検討した協議会のみなさまや、蚕糸試験場に勤めていた方など70名の方にご出席いただきました。このお祝い会で国登録有形文化財の証であるブロンズ製のプレートも初めてお披露目されました。

今年の桑ハウスの公開は今後活用していくうえで、こういった使い方もできるのではないかと、といった提案の意味合いも込めて、一部の部屋を休憩スペースとしてしつらえ開放しました。板張りの床と木のテーブルやベンチ、桑ハウスの雰囲気とマッチした照明によって、大々的に改修しなくとも建物の魅力を感じられるおしゃれで落ち着いた空間となりました。来場した方からは「インスタ映えしそう～」との声も聞かれました。



撮影者：遠藤ちえ

今年の展示は桑ハウスの歴史等についてのパネルや、蚕具の展示のほか、ドローンによる桑ハウスと周辺の空撮映像、仲田小学校での蚕の飼育の様子を追った映像なども上映していました。写真だけではわからない、蚕の動きや桑の葉をかじる音を聞くことができたのではないのでしょうか？

2日間の公開と、お祝い会をあわせて1,530名の方にご来場いただきました。たくさんの方に足を運んでいただきありがとうございました。

今回のお祝い会・特別公開にむけて、プレイベントとして10月21日に「お掃除会」を行いました。日野市商工会の建築ステーションや桑ハウスの協議会の方々にも協力をしていただき総勢37名での大掃除となりました。漆喰の壁をメラミンスポンジを使用して磨いたり（少し磨くだけで白くなります！）、床の水拭き掃除といった大規模な清掃となりました。雨の中、大勢の方の協力のおかげで桑ハウスの魅力がより伝わるような公開となりました。



桑ハウスについては今現在、活用方法の民間意向調査を行っております。今年度末には調査の実施結果の概要と活用案をまとめていく予定です。今後の桑ハウスにどうぞご期待ください！

みず
くらし
まち水辺のある風景
日野50選

水辺のある風景 日野50選

選ばれた水辺を紹介します

⑤0 程久保川源流

程久保川は、日野市内七生丘陵に源を発し、日野市で多摩川に合流する長さ5.5kmの一級河川です。昭和40年代から50年代にかけて、下流より順次直線化・コンクリート護岸されてきましたが、京王線多摩動物公園駅より上流には、日野市で唯一、コンクリート護岸されていない自然河床が残されています。随所にナメ床があり、山側からは湧水が滴る、河川源流の美しい景観が見られます。

一級河川上流端のさらに上流では、周辺の雑木林や畑地と一体となって、里山の原風景を残しています。ここまで来ると流れはさらに細くなり河床もナメ床で



源流部の風景



ナメ床 (青ナメ)

はなくなり、山際を流れる小川の様になります。近くには比較的広い道路も通っていますが、この部分だけを見ると畑があり小川があり雑木林がある、昔のままの風景です。上程久保には谷の北側（南向き斜面）に10軒ほどの屋敷が点在していますが、この集落規模は昔から変わっていませんが、大きな変化を受けないまま現在まで維持されています。

*「ナメ床」は、青灰色の粘土質の地層が川の流れによって露出したもので、「青ナメ」とも呼ばれています。多摩動物公園駅〜一級河川上流端付近で随所に見られますが、残念ながら近づくことのできる場所は限られています。

秋の市内一斉清掃

市では、「日野市みんなでまちをきれいにする条例」に基づき、毎年5月（春）と11月（秋）の最終日曜日をみんなでまちをきれいにする日として市内一斉清掃を行っています。

今年度の秋の一斉清掃では明星大学、実践女子大学、首都大学の総勢110名の皆さんが自治会の方々と協力し清掃を行ってくれました。

このように自治会や学生ボランティア等、様々な団体が協力しながら清掃することで、みなさんの交流を深め、地域のつながりを強めるきっかけづくりとしていただければ幸いです。

次回は、平成30年5月27日に春の一斉清掃を予定しております。今回同様ご協力よろしくお願ひします。

平成29年度 秋の一斉清掃

参加団体（組）		281
参加人数（人）		16,580
収 集 量 （kg）	可燃	40,390
	不燃	1,360



実践女子大、首都大学のボランティアの皆さんも参加してくれたよ！



明星大学の皆が参加してくれたよ！



公園名の由来



●豊田電車区公園 (街区公園194)

所在地…東平山3-26-23/面積…1,239㎡/開園日…平成23年6月30日

この公園は、豊田電車区に隣接したJR東日本豊田社宅内にあった公園跡地の一部を利用して造られました。

昭和15年頃、国鉄が大井工場を移転させるために用地を買収し、昭和41年、460㎡収容の豊田電車区が発足。用地は地元地権者の多大な協力のもと約10ヘクタールで、当時東洋一の規模でした。

現在は、国鉄からJR東日本へと所属が変わり、豊田車両センターと名称も変更されました。平成22年現在、780両が収容可能で、ここに配置の車両には「ハトタ」(八王子支社と豊田)の略称が付けられています。



(C) 2017 PASCO CORPORATION.

(C) 2017 INCREMENT P CORPORATION.

いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

●中原公園 (街区公園181)

所在地…東平山3-16-21/面積…387㎡/開園日…平成20年6月2日

旧平山村の内、このあたりを中原といいました。東平山の真ん中あたりの原っぱという意味です。

近くをJR中央線が走り、鉄道にゆかりの深い地域でもあります。

中央線の始まりである甲武鉄道新宿-八王子間が開通したのは明治22年(1889年)8月、豊田駅が開業したのは同34年2月のことでした。昭和41年には、豊田電車区が設けられ、ずっと首都圏の輸送を支えてきました。

第18回 用水守懇談会を開催しました

平成29年10月8日(日)午前10時半から市役所において、「第18回用水守懇談会」が開催されました。

初めに市長より挨拶があり、用水守の皆さまへ日頃の活動について感謝を伝えるとともに、今年日野用水開削450周年の記念すべき年であることを確認しました。続いて、用水守の方々から前年度の活動報告があり今抱える問題点、今後の課題など皆様の熱い思いが伝わる懇談会となりました。なお、今回都合により参加できなかった用水守の皆さまからも事前に活動報告を提出していただいております、改めてたくさんの方に日野市の用水路が支えられていると感じました。

動が年々厳しくなっていること。

若い人の参加など。直近の課題と痛感しました。

用水組合からは、田んぼが年々

少なくなっていく現状の報告があり用水路と田んぼをこれからどのように残していけるか、報告がありました。

当日参加者…用水守12名

現在、用水守への登録ですが、15の団体、個人は29名と総勢約400人となっております。



用水守制度って？

平成14年に日野市用水守制度が制定され、市内の河川や用水・湧水を対象に、清掃・草刈り・緑化などボランティアにて行う制度です。





青いサギの不思議

〈青くないから詐欺?〉

アオサギの背の色には、繊細な美しさがあります。漢字で書くなら、蒼鷺です。日本では、微妙な青味がかった灰色を、古来、蒼と呼んで来ました。例えば、雄はハシボソガラスくらいの大ききさしいオオタカ（雌は雄より大きく、ハシボソガラスほどある）も、大きな鷹ではなく、蒼鷹がその名の由来と考えられます。

ただし、若いアオサギの背には青味ありません。詐欺と怒るなかれ、若いアオサギも2、3年かけて微妙に美しくなります。小鳥をはじめ、多くの鳥類は1年で繁殖できるようになりま



アオサギの成鳥

すが、大きな鳥の中には、成鳥になるまで2年から数年を要するものがいます。アオサギは、ハシボソガラスより大きければかりか、日本のサギ19種の中で最大で、翼を広げると160センチに達します。

〈どうして増えた?〉

近年、アオサギは増加傾向にあるようで、身近な川や池でも目にするようになったし、街の上もよく飛んでいます。秋冬は、夜にもよく飛んでいて、ギャーッと怪獣のような声でわかります。

かつては、身近で見られる鳥ではありませんでした。移動途中に公園の池などに姿を

見せると、コウノトリと間違われて騒ぎになることもあったほどです。ちなみにサギの仲間は長い首を曲げて飛びますが、コウノトリ、ソル、トキの仲間は伸ばして飛ぶので、上空でも、肉眼でわかります。

アオサギは多くの図鑑で留鳥とされています。そのため、移動しないように誤解されているようですが、

北海道では冬を越すアオサギは少なく、その多くが夏鳥だし、南西諸島では秋冬だけ見られる冬鳥です。東京都内では冬のほうが多いようですが、北海道から南下して来るのでしょうか？ 実は、中国や朝鮮半島でも夏鳥なので、大陸から飛来するアオサギがいてもおかしくありません。

アオサギが増えているとしても、季節や地域を考えたことには、その要因を検討できないのですが、近年、コサギが減ってきたという心配とともに、アオサギの増加と関係があるかも知れないとの指摘があります。



アオサギの若鳥
(左はチュウサギ、右はコサギ)

最後になりますが、日本野鳥の会が南平の日野市の敷地約2千坪に設置していた鳥と緑の日野センター（愛称…WING、旧名称…鳥と緑の国際センター）は、1997年3月に第一期建物が竣工して以来、約20年が経過し、昨年、日野市とも協議の上、同センター事業を終了させていただきました。これまでいただいてまいりました多くのご寄付やご支援に、感謝申し上げます。

文

（公財）日本野鳥の会

主席研究員 安西英明

写真 金子精一

あしがき

2017年もあつという間に終わりが近づき（編集時は12月なので…）、また新しい年が始まるんだなと気づかされます。

29年度、緑と清流課では日野用水開削450周年という大きな節目を迎え、イベントを行いました。そこには様々な人が関わってくださり、とても行政だけではできない大きな事業だったと思います。水路の歴史や時代背景、そこに住んでいた人々の暮らしなど、貴重な資料もたくさんあります。

伝えたり見せたりすることも大切ですが、これを通して、いかに次に繋げていくかが我々行政の役割ではないかと思えます。これからも委員さんを含め、様々な方にご協力いただくとありますが、よろしくお願ひします。

2018年も清流ニュースをよろしくお願ひします！

（森田）